

COVID-19ウイルスワクチン接種後に発症する眼炎症疾患の緊急調査 第1報 (2022.1)

昨年2021年2月17日から本邦でのCOVID-19ワクチン接種が開始されて以降、全国でワクチン接種後早期の眼炎症疾患の発症・再燃の報告が相次いでいます。そこで本学会では、その実態を把握するため全国の大学病院及び基幹病院へアンケート調査を依頼しました。

対象患者：2021年2月17日から2021年12月31日の期間において
COVID-19ワクチン1回目もしくは2回目接種後14日以内に
眼炎症性疾患の新規発症または再発により受診した患者

調査方法：アンケートを送付し回答が得られた14施設44例のうち、
接種日・発症日が明確な35症例について、発症までの日数と疾患について
調査した。なお35名中3名はワクチンの製造会社が不明のため社別の結果から除外。

・ ワクチン接種後14日以内に眼炎症疾患を発症した35症例

1回目接種後発症：14例（初発 9例、再発5例）

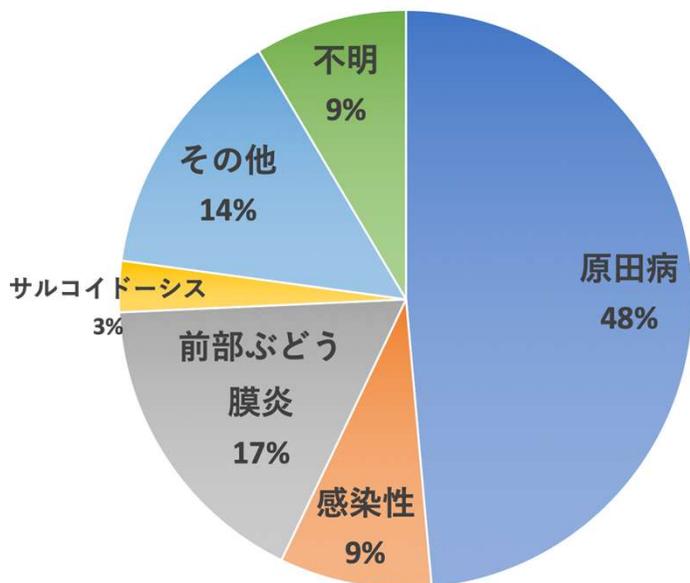
ワクチン接種後から発症までの平均日数：6.07 ± 3.63日(1-11日)

2回目接種後発症：21例（初発19例、再発2例）

ワクチン接種後から発症までの平均日数：7.19 ± 4.19日(1-14日)

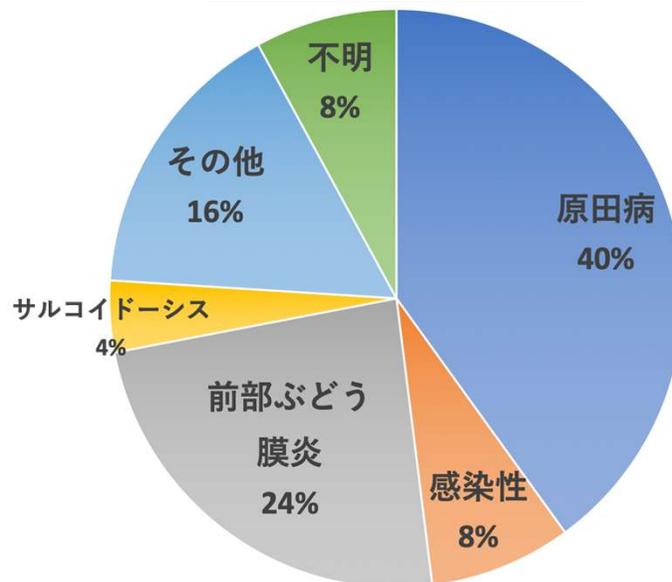
・疾患の内訳

全体



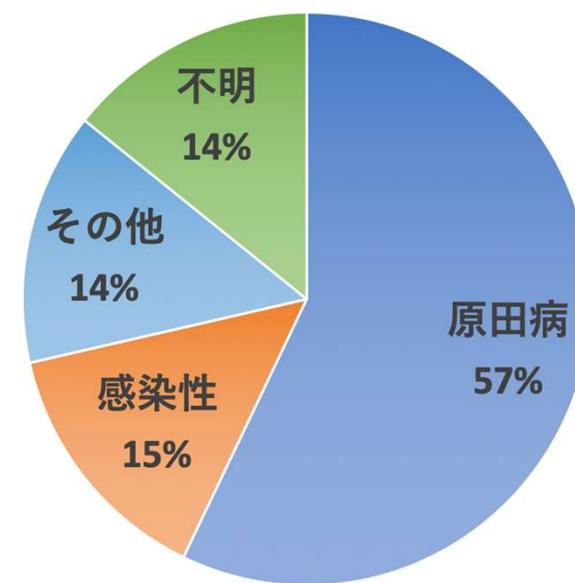
原田病	17
感染性	3
前部ぶどう膜炎	6
サルコイドーシス	1
その他	5
不明	3
合計	35

ファイザー製



原田病	10
感染性	2
前部ぶどう膜炎	6
サルコイドーシス	1
その他	4
不明	2
合計	25

モデルナ製



原田病	4
感染性	1
前部ぶどう膜炎	0
サルコイドーシス	0
その他	1
不明	1
合計	7